



2025年6月 洒水（しゃすい）の滝にて（神奈川県山北町）

スオスダイ！ （こんにちは）

主の御名を賛美いたします。私たちは2015年3月に日本バプテスト連盟より派遣され、2023年3月までの8年間、カンボジアで宣教活動を行ってきました。

2023年4月、CBU（カンボジアバプテスト連合）より招へいを頂き、主の導きとみ言葉によってカンボジアの地で宣教活動を継続しています。ただ、CBUからの生活支援はありませんので、日本の教会や個人の方と祈りにつながり、具体的な支援の中で宣教活動を続けられるように願い、祈っています。

近況報告

皆さま、いつもお祈りとご支援ありがとうございます。8月4日（月）、約2か月の日本滞在を終えプノンペンに戻りました。昨年以上に多くの教会や個人との出会い、そしてカンボジア宣教を分かち合う機会が与えられました。6月8日の横浜JOYバプテスト教会での奉仕を皮切りに、CFNJ聖書学院（石狩市）、北星学園大学（札幌市）、小倉キリスト教会（北九州市）、福岡女学院高校（福岡市）、東熊本キリスト教会（熊本市）等、北は北海道から南は熊本県まで、全国各地20か所以上の教会や学校等で奉仕させていただきました。皆さま、お祈り本当にありがとうございました。



カンボジア帰国後、最初のCBUオフィス教会礼拝にて出迎えてくれた子どもたち



8月3日（日）常盤台バプテスト教会（東京都板橋区）カンボジア宣教報告会にて

7月、カンボジアとタイの国境付近で軍事的衝突が発生しました。8月下旬現在、国際社会の介入により両国の間で停戦合意がなされました。しかし、国境付近の地域では、避難生活を続けている方々が多くおられます。

また首都プノンペンでは、タイ資本のスーパーは普段より客足が少なく、不買運動のような動きがみられます。両国の国境付近で起こった今回の衝突ですが、一刻も早い平和的な解決がなされ、双方の住民が元の生活に戻れるように、どうぞお祈りください。以下、帰国中の出来事から抜粋してお伝えします。

見よ、新しいことをわたしは行う。今や、それは芽生えている。あなたたちはそれを悟らないのか。
わたしは荒れ野に道を敷き、砂漠に大河を流れさせる。

イザヤ43：19

梅ジュースでつながる (横浜JOYバプテスト教会)

帰国直後の主日、横浜JOYバプテスト教会の礼拝に参加し、午後に報告会を開催頂きました。礼拝前のCS(教会学校)幼少科クラスにて、子どもたちにカンボジアの果物を紹介し、実際にカンボジアの“クナオ”(ジャックフルーツ)のチップスを子どもたちに味わってもらいました。

これを受けて教会学校幼少科の子どもたちが、素晴らしい試みをしてくださいました。それは、梅ジュース販売によるカンボジア献金です。



教会学校幼少科にて、カンボジアのフルーツを紹介

この夏、教会員の方のご家庭で収穫された梅を使って、教会学校の子どもたちが心を込めて梅ジュースを作り、カンボジアの子どもたちへの献金を目的に教会で販売しました。準備は7月下旬から始まり、当日は100杯以上を売り上げることができました。

カンボジアへ帰国後、その様子を現地のCBUオフィス教会の子どもたちに写真で紹介しました。同年代の子どもたちが一生懸命販売する姿に目を輝かせ、真剣なまなざしで見入っていました。

この働きを通して、国を越えて、子どもたちの心と心がつながったことを主に感謝します。奉仕してくれたCS幼少科の子どもたち、そして支えてくださったリーダーの皆さま、本当にありがとうございました。



(左) 出来上がった梅ジュースと手作りの看板
(右) ジュースを販売するCS幼少科の子どもたち

世界とつながる WUPM(世界未伝道部族宣教会)

日本滞在中、韓国の宣教団体“WUPM”(World Unreached People’s Mission: 世界未伝道部族宣教会)への正式加盟が、主によって導かれました。

今から約2年前、日本バプテスト連盟によるカンボジア派遣が終了した直後、WUPM Japan代表、伊藤仁先生(元ミャンマー宣教師)が私たちに声をかけて下さいました。以来、今年も含めて3回の日本一時帰国時、知り合いの教会を紹介して下さり、宣教報告について自身の経験から親身にアドバイスを下さるなど、この2年間、一貫して私たちをサポートして下さいました。



WUPMに加盟している宣教師たち
20カ国に30家族、計58人の宣教師を派遣しています

7月下旬、伊藤先生の手引きによりWUPM韓国本部 チョー・ジャンヨン代表、ソ・アンドリュースとオンラインでお会いし、正式にWUPMへ加盟する運びとなりました。今後、WUPM並びにWUPM Japanは、祈りによるサポートはもちろん、主に宣教師の霊的、感情的ケアを担ってくださいます。

支援グループ「リビングフィールドの会」に続き、WUPM、そしてWUPM Japanがカンボジア宣教の支援に加わってくださったことを、本当に心強く、嬉しく思います。主の導きに心から感謝します。



WUPM Japan代表 伊藤仁先生と
子ども食堂「マナ」の前にて(北海道石狩市)

日本の生徒たちとつながる (西南学院中高チャペル講話)

7月、西南学院中学、高校の全学チャペルにて奉仕の機会を頂きました。生徒の皆さんでほぼ満席となったホールで、カンボジアの紹介、宣教活動の紹介をする恵みが与えられました。

そこで知ったことは、何と今年12月に、西南学院高校でカンボジア研修が予定されているということです。アンコールワットで有名なシムリアップ近辺で、約20名の生徒さんたちが活動されるそうです。今回のチャペル講話は、その研修に参加する生徒さんたちにとって、関心を高めてもらう絶好の機会となりました。加えて、福岡女学院中学でもチャペル講話の機会を頂きました。この奉仕の機会と出会いを導いてくださった主に感謝します。



西南学院中学チャペルでの奉仕の様子
大ホールに1000人以上の生徒が集まりました



2024年11月のミッショントリップにて
キングフィールド近くの集落で野外伝道イベント

ミッショントリップでつながる (横浜オンヌリキリスト教会)

7月、横浜オンヌリキリスト教会の主日礼拝に参加し、メッセージと宣教報告の機会を頂きました。午前中の日本語礼拝、午後の韓国語礼拝双方で奉仕させていただきました。

昨年10月、横浜オンヌリ教会から6名のチームがカンボジアに来られ、宣教活動に加わっていただきました。今年も9月に7名のチームが来られ、再び宣教活動に加わっていただきます。このように、宣教チームを主が起こして下さり、カンボジアとつなげてくださっていることに感謝いたします。今後も宣教チームを受け入れるために、ホームページなどに情報をアップする予定です。どうぞお祈りください。

紙飛行機でつながる (山形キリスト教会)

7月27日、私たちは山形キリスト教会の礼拝に参加し、午後に報告会を開催頂きました。その際、とある子どもメンバーが、紙飛行機の折り方を教えてくれました。あまりによく飛ぶので、折り方を録画し、カンボジア帰国後最初の礼拝、8月10日の日曜学校で早速子どもたちに紹介しました。



カンボジア帰国後最初の日曜学校にて
山形で教わった紙飛行機を使って紙飛行機大会



7月27日、山形キリスト教会にて
カンボジア宣教報告会を開催頂きました

動画を見ながら、子どもたちの紙飛行機が完成し、みんな大喜びでした。その後急ぎょ、紙飛行機大会を行いました。もちろん、一番遠くまで飛んだ飛行機が優勝です。一位の飛行機は、教会堂の外まで飛んでいきそうな勢いでした。まるで、福音が地の果てまで届くことを象徴しているかのようでした。

これからも、このような日本の子どもとカンボジアの子どもがつながるイベントが増えていくことを願い祈っています。

カンボジアの小学校とつながる (青葉キリスト教会)

昨夏に続き、今年も青葉キリスト教会の祈り会で宣教報告をさせて頂きました。現在、私たちに1つの構想が示されています。それは、青葉キリスト教会の近隣地域の子どもたちとご家族から、文房具等の献品を募り、それをCBUオフィス教会近くの小学校「小倉（おぐら）小学校」へ届けるというものです。

献品を通して、青葉キリスト教会と近隣地域がカンボジアとつながり、神様の祝福が広がっていきますように。またこの働きが、教会によるカンボジア宣教支援の1つのモデルとなり、より多くの教会が加わってくださることを祈っています。



小倉（おぐら）小学校の様子。キリングフィールド近く日本人の支援によって建てられた校舎

「希望の糸」でつながる (マクラメアート)

今年も全国各地の教会で、「希望の糸」（カンボジア女性支援活動）の製品を購入いただきました。この夏に向けて、ケマさん、スレイモムさんが約200個のプラントハンガーを用意しました。新デザイン、アンコールワットを中心に、用意した作品は、全て完売となりました。購入を通して支援して下さった皆様、本当にありがとうございました。

現在、アンコールワットに続き、カンボジアをモチーフにしたデザインのプラントハンガー、更に新しいマクラメバッグなどを開発中です。



購入いただき、教会に飾られた「希望の糸」のマクラメプラントハンガー

「リビングフィールド」への祈り

この夏、日本で次の御言葉が与えられました
「見よ、新しいことをわたしは行う。今や、それは芽生えている。あなたたちはそれを悟らないのか。わたしは荒れ野に道を敷き砂漠に大河を流れさせる」
(イザヤ43:19)

かつて、荒涼とした殺人の大地であったキリングフィールド（ポルポト時代の処刑場）と周辺地域に、神の祝福によって新しいことが次々と起こされています。私たちの願いは、個人の方はもちろん、さらに多くの教会がカンボジア宣教に加わってくださる事です。祈りによるご支援、ニュースレター購読を通して、あるいは献金によるご支援を通して、皆さまがカンボジア宣教に加わってくださることを、心から祈り願っております。



カンボジア帰国後最初の日曜学校にて、喜んで賛美する子どもたち

<祈りの課題>

1. CBUオフィス教会の子どもたち、青年たちが主の恵みによって更に成長するように。
2. キリングフィールド近くの集落と教会付近の地域が、福音によって変えられていくように。
3. カンボジア宣教に加わる教会が新たに起こされ、宣教のための全ての必要が満たされますように。

嶋田 和幸・嶋田 薫 (CBU宣教師)、来主 (くろす、16歳)、栄主 (えいす、13歳)

(連絡先) Eメールアドレス

dekakurosu3927@gmail.com

ホームページ: <https://living-field.org/>

(献金振込先) 楽天銀行 ノエル支店 (支店番号 246)

口座番号 1081064 シマダ カズユキ

